

連合福島&県労福協 2020 新春交歓会

物質的満足感がある一方で、格差拡大、環境破壊などの脆さ・危うさが表面化 ～働く者、生活者の権利をしっかりと擁護する運動が不可欠～

連合福島の2020年新春交歓会は、県労福協との共催により、さる1月7日(火)に福島グリーンパレスにおいて開催し、県内各地から約320名が出席した。

オープニングは、シャンソン歌手・砂羽しゅうこさん、シンガーソングライター・藤野恵美さんのステージで開演し、福島県にゆかりのある丘灯至夫(小野町出身)作詞、古関裕而(福島市出身)作曲で、猪苗代町の「沼尻軽便鉄道」が舞台となった『高原列車は行く』など5曲が披露された。



主催者挨拶・今野 泰
連合福島会長

吉川毅一県労福協副会長の開会挨拶に続いて登壇した今野泰県労福協・連合福島会長は、主催者を代表して「今日の社会情勢は自由競争もとで成長し、物質的満足感を提供している一方で、格差拡大、環境破壊などの脆さ・危うさが世界的に表面化している。働く者、生活者の権利をしっかりと擁護する運動が不可欠である。東日本大震災からの復興創生期間の中、昨年10月の台風や水害で多くの方が被災した。連合ボランティアへのご協力に感謝するとともに、十二支のスタートである「子年」、そして、新たな元号「令和」時代での新たな価値観の創造と、ご臨席いただいた皆様、構成組織・団体の今年1年のご多幸とご健勝を祈念したい」と挨拶した。

また、多くのご来賓を代表して、内堀雅雄福島県知事、国民民主党福島県総支部連合会代表・小熊慎司衆議院議員、瓜生信一郎・福島県議会・県民連合議員会会長から、新年のご祝辞を頂戴した。その後、今野会長はじめ多くのご来賓の方々が壇上にて鏡開きを行い、小野利市県労福協



今野会長はじめ多くのご来賓の皆様による鏡開き

副会長の乾杯の発声で、一年の飛躍を誓い合った後、歓談に入り親睦を深め合った。

恒例のお楽しみ福引抽選会では、電気圧力鍋や加湿器、さらにはオーブントースター等が当たり、新年早々幸運に恵まれた方々から喜びの歓声が上がった。最後に今泉裕県労福協副会長の挨拶をもって、大盛況の中2020年新春交歓会は閉会となった。



(左) 藤野恵美さんと、(中) 福島県にゆかりのある「高原列車は行く」の披露、(右)、砂羽しゅうこさん

来賓を代表してご挨拶を頂いた、(上) 内堀雅雄福島県知事、(下) 国民民主党福島県総支部連合会代表小熊慎司衆議院議員